

授業科目名		高齢者看護援助論		担当教員	◎青山美紀子、長江弘子、 山田案美加、新田静江、畑中綾美、 比護文也	科目ナンバリング NS362
必修	開講年次：3 年前期	単位：2 単位	授業形態：演習60時間			

【授業概要】

さまざまな健康及び機能障害にある高齢者を対象に、そのひとがこれまでに生きてきた過程、家族関係、地域社会での役割などの理解を深める。加齢や機能障害によって、高齢者の日常生活行動がどのように変化するのか、QOL にどのような影響を及ぼすのか学ぶ。また、その機能を維持しながら生活できるよう、その機能を十分に発揮できるよう、高齢者の看護援助について学ぶ。

【達成目標】

1. 加齢の変化がアセスメントできる。
2. 高齢者の特徴的な疾患と看護について理解する。
3. 高齢者の特徴的な症状と看護及び、身体機能の評価と自立の援助について理解する。
4. 保健医療福祉施設における高齢者ケアの看護について理解する。
5. 高齢者の日常生活のケアに必要な技術を習得する。
6. 回復期の高齢患者の看護過程が展開できる。
7. 高齢者の QOL と QOD について学びを考察できる。

【履修条件】

「高齢者看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 講義の概要説明：加齢の変化とアセスメント運動器系 (青山)
- [02] 高齢者に特徴的な症状と看護：廃用症候群・褥瘡 (山田)
- [03] 加齢の変化とアセスメント：呼吸器・循環器 (新田)
- [04] 加齢の変化とアセスメント：消化器・腎・内分泌 (新田)
- [05] 高齢者に特徴的な症状と看護：栄養摂取障害、低栄養・脱水 (青山)
- [06] 【演習】栄養摂取への援助・口腔ケア・嚥下体操 (青山・山田)
- [07] 高齢者に特徴的な疾患と看護：高次脳機能障害 (青山)
- [08] 高齢者に特徴的な疾患と看護：神経機能障害(パーキンソン病) (青山)
- [09] 高齢者に特徴的な疾患と看護：循環機能障害(高血圧、不整脈、脱水) (新田)
- [10] 高齢者に特徴的な疾患と看護：呼吸機能障害(肺炎、インフルエンザ)、感染症(ノロウイルス、疥癬) (新田)
- [11] 高齢者に特徴的な疾患と看護：認知機能障害(うつ病、せん妄) (青山)
- [12] 高齢者に特徴的な疾患と看護：認知機能障害(認知症①)映画鑑賞 オリ梅 (青山)
- [13] 高齢者に特徴的な疾患と看護：認知機能障害(認知症②) (青山)
- 【演習】認知機能のアセスメント (青山・山田)
- [14] 高齢者に特徴的な疾患と看護：感覚機能障害①(白内障、老人性難聴) (新田)
- [15] 高齢者に特徴的な疾患と看護：感覚機能障害②(老人性皮膚掻痒症、帯状疱疹、痛み)
高齢者に特徴的な症状と看護：不眠 (新田)
- [16] 【講義&演習】高齢者の身体機能評価、自立への援助： (比護・畑中・青山・山田)
- [17] 【講義&演習】高齢者の身体機能評価、自立への援助： (比護・畑中・青山・山田)
- [18] 高齢者に特徴的な疾患と看護：運動機能障害(大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症) (青山)
- [19] 高齢者に特徴的な症状と看護：排泄障害(失禁・便秘) (山田)
- [20] 【演習】高齢者の排泄ケア・フットケア (青山・山田)
- [21] 高齢者の検査と薬物療法・リスクマネージメント (山田)
- [22] 高齢者施設の役割と看護 (青山)
- [23] 回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開 (青山)
- [24] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開①(グループワーク：アセスメント) (青山・山田)
- [25] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開②(グループワーク：関連図) (青山・山田)
- [26] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開③(グループワーク：問題リスト、目標設定、計画) (青山・山田)
- [27] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開④(グループワーク発表) (青山・山田)
- [28] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開⑤(まとめ) (青山・山田)
- [29] 高齢者の QOL を考える (長江)
- [30] 高齢者のアクティビティケア、臨地実習に向けた課題 (山田・青山)

【教科書】

1. 真田弘美・正木治恵編(2020)：老年看護学技術(改訂第3版)，南江堂。
2. 正木治恵・真田弘美編(2020)：老年看護学概論(改訂第3版)，南江堂。

【参考書】

1. 山田律子他編(2020)：生活機能からみた老年看護過程 病態・生活機能関連図(第4版)，医学書院。
2. 江川隆子編(2019)：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(第6版)，ヌーヴェルヒロカワ。

【評価方法・評価基準】

- ①試験成績80% (小テスト40%＋定期試験40%の合計)、
- ②課題学習20% (課題レポート4回)
 - ・合格は、試験成績が60%以上とする。※60%未満で再試験対象者となる。再試験は1回のみ
 - ・成績は試験得点合計が60%以上で課題学習点を含めた総合点

【講義のために必要な事前・事後学習】

- ・事前学習：授業時に提示された事前課題を自己学習して授業に臨むこと。
- ・事後学習：講義資料をもとに授業内容の復習を行う。学習内容の復習のために、講義毎に小テストを実施する。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ、根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

- ・小テストの問題は回収せずに正解を1週間掲示し、レポートは評価点を記載して学期内に返却する。
- ・看護過程の課題レポートは、臨地実習で必要になる為、実習オリエンテーションで返却する。

【備考】

講義毎に資料の配布・文献の紹介を行う。